

地域連携に関する取り組み紹介

みとよ かんおんじ
うどん県三豊市・観音寺市 チーム

2025年度
地域緩和ケア連携調整員研修（アドバンスコース）
【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
三豊総合病院・ 内科	遠藤 日登美（医師） 内科部長
〃 ・ 看護部	佐藤 愛子（看護師） 副看護部長 緩和ケア認定看護師
〃 ・ 看護部	大西 まゆみ（看護師） 師長
〃 ・ 看護部	白川 律子（看護師） 緩和ケア認定看護師
〃 ・ 薬剤部	石原 瑛太郎（薬剤師）
〃 ・ 訪問看護ステーション	中川 佐知（保健師） 副主任
訪問看護ステーション らしく	伊達 さおり（看護師） 管理者
スター薬局 大野原店	浦上 勇也（薬剤師） 管理薬剤師

① 選定した地域の課題

- ・ 地域で最後まで過ごせるための情報の周知不足
- ・ 患者・家族の相談だけでなく、地域の医療機関からの相談窓口が明らかでない
- ・ 現状あるツールや地域情報などの共有が不十分で、活用できていない
- ・ MCSの運用で、多職種から質問に返答してくれるが、採血結果や薬剤の変更がわかりにくい

② どんな地域を目指すのか

- ・ 地域の医療機関や在宅療養支援診療所、福祉施設などの医療・介護を担う機関と連携し、在宅を含めた緩和ケアが提供できる地域

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

①地域の医療機関や在宅療養支援診療所、福祉施設などで医療・介護を担う医療従事者が、基本的な緩和ケアについて正しく理解し実践できるように働きかける

②緩和ケアに関する相談支援や情報提供体制を充実させる

県や市が発行している“地域の療養情報”について、院内関係者の活用状況を確認する。活用するために不足している情報や項目があれば行政と連携し追加・修正する

③MCSを今後三豊・観音寺地区で普及していくために医師会と連携して今後の運用状況を検討する

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

① 基本的な緩和ケアについて正しく理解し実践できるように働きかける

- ・ 地域の在宅療養支援診療所や福祉施設に、緩和ケアに関する意識調査を実施（6月）
- ・ 行政と連携し、年4回開催されている施設の集まりに院内のがん関連職種（看護師・薬剤師など）が参加し、勉強会（緩和ケア、支持療法ほか）実施（2回/年実施日未定）
- ・ 介護スタッフや福祉職と顔の見える関係を構築し、在宅療養支援診療所や福祉施設等との連携方法を検討する（10月）
- ・ 6月に実施した意識調査結果から、緩和ケアに関する情報や情報提供体制を見直し連携機関に発信する（10月）
- ・ 再度、地域の在宅療養支援診療所や福祉施設に緩和ケアに関する意識調査を実施し、次年度の課題を抽出する（令和8年2月）

② 緩和ケアに関する相談支援や情報提供体制の充実

- ・ 相談窓口を明確にし、行政やHPなどを活用し周知する（9月）
- ・ 県や市が発行している“地域の療養情報”について、院内関係者の活用状況を確認する。活用するために不足している情報や項目があれば行政と連携し追加・修正する。地域住民への周知啓発は、薬剤師会や訪問看護ステーション管理者会を利用（令和8年度内）

③ MCSを今後三豊・観音寺地区で普及していくために医師会と連携

- ・ 医師会で導入可能か当院を含めて確認。（6月頃）
※医師会が困難であれば地域包括に相談していく予定
- ・ 導入可能であれば現在使用している患者で導入
- ・ 年度末でどの程度導入できるか確認